

51. <未知との遭遇>

調査である処理場に伺った際のことです。打ち合わせの後、「最近、最終沈殿池に何か変なものが浮いているのだが、何なのかわからない。ちょっと見てもらえないですか」というお話があり、最終沈殿池に行ってみると、なるほど水面に小さいゴマ粒のようなものがたくさん浮いています。かなり細かいものですが、網で掬うと粒が塊になって集まります。さわるとザラザラとした感触で、生物というより何かの種子のような感じです。処理水は清澄で、このゴマ粒のような物も特に処理上は問題ないが、採水する際に試料に混入するとSSとしてカウントされることがあるので困るということでした。

「何だろう？」と首をひねりながら管理棟に帰り、顕微鏡で撮影した写真を見せてもらいました。顕微鏡写真に写っていたのは、楕円形をして中心に白っぽい核がある、まるでUFOのような形の不思議な物体です。核の周辺には、細胞らしきものがたくさんあり、原生動物のようでもあり、何かの種子のようにも見えます。(添付写真参照)

これまでに見たことも無い物なので、見当もつかず、「うーん、藻類のようにも見えるが、何かの種子や花粉かも知れないし、帰って調べてみます。」ということで、写真とサンプルを持ち帰りました。

さて、これは一体何なのか？わがJ Sの技術援助経験豊富な水質担当職員にも聞いて見ましたが、「藻類だ。」「いやワムシかアメーバではないか？」「何かの種子だろう。」と結論が出ません。「それでは」と、資料室の淡水生物図鑑を引っ張り出して、藻類や原生動物、植物等を片端から見て行きましたが、似たようなものは全く見当たりません。諦めかけましたが、念のため、関係なさそうな項目も一応見ておこうと図鑑をめくってゆくと、なんと「触手動物」のところ似たような絵があり「コケムシ」と書いてありました。

このコケムシ(苔虫)というのはムシとは言っても昆虫ではなく、外肛動物

門の下等生物で、ひとつひとつは体長1~3mm くらいの小さな個体ですが、これが多数あつまって様々な形の群体をつくり、水中の岩や藻などに付着して生活します。群体の外観が植物のコケに似ているので、コケムシと呼ばれるそうです。

コケムシは、群体から休芽（きゅうが）と呼ばれる固い殻を持つ胞子のよう なものを放出し、条件の良い場所で発芽して増殖しますが、写真の物体の正体は、ヤハズハネコケムシという種類のコケムシの休芽であることがわかりました。なお、オオマリコケムシという種類のコケムシは、池や沼で時に直径数十 cmにも達する球状の群体を作り、「謎の生物出現！」と騒ぎになることがある そうです。

私はコケムシを見たのは初めてだったのですが、ひょっとしたら正体が分 からないため、これまで報告されていないだけで、他の処理施設でも結構出現し ているのかも知れません。なお、コケムシは5億年前から地球に生息している 生物だそうですので、もし見つけたら、掬って捨てる前には多少の敬意を払っ てあげましょう。

< 村上 孝雄 >

※No.57号(2006/8/23)に掲載